



診察する清水医師。初診では血圧測定をし、問診に時間をかける

そこで今回は頭痛の実態について取材するため、東京・汐留にある汐留シティセンター・セントラルクリニックを訪ねた。清水医師が「頭痛以外の頭痛治療を牽引する、清水医療医師が「頭痛外来」を開設している。

脳波で分かる脳の興奮痛み以外に問題も

クリニックの待合は頭痛で悩む多くの患者で溢れていた。年齢はさまざまで、約8割は女性。受付の女性に話を聞くと、「今日はこれでも少ない方」だという。頭痛外来では、初診の患者はまず、問診表記入のほかに、MRI（核磁気共鳴画像）検査、血液検査、脳波検査を実施する。

「頭痛」といってMRIや血液検査、頭痛外来では、初診の患者はまず、問診表記入のほかに、MRI（核磁気共鳴画像）検査、血液検査、脳波検査を実施する。

薬物乱用頭痛が脳の興奮を惹起する

多くの頭痛患者の脳波をみてきた清水医師は、現代人の頭痛の一つの可能性として、次

が、慢性頭痛を抱える患者さんの場合、長引く痛みの影響で、脳がかなり敏感になってしまいます。脳波検査では、「この一ヵ月ぐらいで急に痛みが強くなつた」「手足のしびれやマヒが出る」といった症状があつたら、すぐにMRI検査などを受けたほうがよいという。

脳波検査も一般的な医療機関での検査ではあまり行われていない。しかし、清水医師は、これは頭痛の状態を診断する上で欠かせない検査だという。

脳波検査では、患者は頭用のベッドに横になる。部屋が暗くなつたところで光を点滅、刺激を受けたときと、安静時の脳波をとる。検査時間は10～20分程度だ。

多くの頭痛患者の脳波をみてきた清水医師は、現代人の頭痛の一つの可能性として、次

が、慢性頭痛を抱える患者さんは重複して、それが慢性化してしまうのです。

市販の鎮痛薬を自己判断で飲み続けることも、結果的に痛みの水面下で脳の興奮や過敏性を助長させていくという。

冒頭で、頭痛には慢性頭痛と二次性頭痛があると紹介したが、実は二次性頭痛のなかに、「薬物乱用頭痛」というものもある。これは市販の鎮痛薬が頭痛を誘発するのだ。痛みが出た

ために、薬の乱用が進み、悪循環に陥っていく。

「鎮痛薬は表面上の痛みをとりますが、脳の興奮状態は抑えられません。したがってきちんと治療をしていく方がより脳の興奮状態が慢性化しやすいのです」

清水医師は脳の過敏性に對し抗てんかん薬などを予防的に用いている。3ヶ月程度で頭痛の回数が減り、過敏性もとれてくるといふ。さらに、清水医師の研究で、水っぽうの原因となる水痘・帯状疱疹ウイルスが片頭痛や群発頭痛に関与していることが分かつた。「血液検査で抗体価が高い方に抗ウイルス薬を追加で服用していただくと、頭痛が治まることが少なくありません」（清水医師）

まさに、目から鱗の最先端の頭痛治療。原因を診断せずに鎮痛薬を出すだけの治療とは根本的に異なる。決して難しい治療法ではないが、一般の内科医には中々広まらない。これ以上の頭痛の悪化を避けるためにも患者としては一日も早く、最先端の治療が広く確立することを願うばかりだ。



検査室で行われる脳波測定の様子。長い導線は一定間隔をあけて、数回繰り返される。痛みはまったくないが、目を開じても毛の立った感覚はまぶしく感じた。

伊藤隼也が行く! ニッポンの医療現場 第22回

頭痛と脳過敏症候群—“生活の質”を高める医療Ⅲ—

なかなか治らない慢性頭痛意外なものが原因だった?

頭痛に悩む人は多くは「単なる頭痛だから」と決めつけて、市販の鎮痛薬などでやりすごしているのではないだろうか。しかし、頭痛には重大な病気が潜んでいたり、思ひぬことが原因になっていたりすることもある。今回は以外と知られていない頭痛の実態を取材した。

日本人の5人に1人 頭痛に苦しむ人は多い

わが国における頭痛患者人口は3000万人あまり。

日本人の5人に1人が経験している身近な症状だ。

頭痛と一口にいっても、いくつかタイプに分かれている。代表的なものは後頭部から首筋にかけて張った

ように痛む「緊張型頭痛」、こめかみのあたりが頭を打ったように痛む「片頭痛」、

この3つが慢性頭痛（一次性頭痛）と呼ばれるものだ。

また、これらの複合型もある。このほかに、くも膜下出血や脳腫瘍など別の病気が原因で生じる二次性頭痛

が原因で生じる二次性頭痛

ようにはぐれるように激しく痛む「群発頭痛」で、この3つが慢性頭痛（一次性頭痛）と呼ばれるものだ。

しかし、その一方で、市販の鎮痛薬でやりすごしたり、病院でも適切な治療を受けられなかつたりして、いまなお頭痛に苦しむ人たちが多いのも事実だ。

慢性頭痛に對しては、最近、片頭痛の特効薬ともいわれるトリプタン系製剤が使われるようになり、多くの患者が救われるようになつた。

しかし、その一方で、市販の鎮痛薬でやりすごさる。このほかに、くも膜下出血や脳腫瘍など別の病気が原因で生じる二次性頭痛

が原因で生じる二次性頭痛

が原因で生じる二次性頭痛